


みんなのひろば

Message




市民と編集担当者とのおしゃべりコーナー「みんなのひろば」です。より親しみやすい広報紙をめざして、みなさまからいただいたメッセージを紹介していきます。今回は、前号（54号）のクイズ応募ハガキからです。

▼現在、外国人労働者の受け入れが議論されていますが、淡路市では青少年海外派遣や海外の方が工場で働いているなど、すでに海外とのふれあいの場が身近にあると思います。多様性を認める社会に生きるべく私たちは、学ぶことが多くあると思います。（10代）

淡路市に来られて働いている海外の方のほとんどは淡路島が好きになってくれているようです。「まるごと


じんけん」でも取り上げた津名港フェアやUNDOKAI World Cup 2018など、いろんな多文化に触れる機会は増えてきていますので、また紹介をしていきたいと思えます。

▼うちの学校紹介の北淡中学校、一生懸命に取り組む姿勢、それがトイレ掃除だったりして、今どき感心しました。トイレの神様見えていますね！（40代）

今回、皆さんから送られるお便りの中で一番多かったのが、この北淡中学校の掃除についての記事でした。北淡中学校にトイレの神様がいるのだとしたら、ますます掃除が楽しみになる生徒が出てくるかもしれません。

▼人権ビデオ「こころの病と

向きあう」今号の掲載記事の中で思わず目に留まりました。私の身の回りにも心身に変調をきたし、療養中の方がおります。見た目には普通で会話も問題ないのですが特定の業務にストレスがあるようです。ただ甘えているだけではと思われがちですが、それが偏見と認識しました。（50代）

うつ病や統合失調症など、見た目には分からない心の病は、誤解から誤った対応をしてしまうことがあります。本人は分からない、話せないといった状況にあることを周囲の人が理解すること、病気や障害について一人ひとりが正しい知識を身につけることが大切です。

メッセージをお寄せください

クイズ応募ハガキ、FAXやメールで、淡路市市民生活部人権推進課までお知らせください。

淡路市社会福祉協議会

くらしのトピックス ⑬

「隣に立ち背中にそっと手をあて一緒に前に進む」視点

淡路市社協では、小学校区や町内会などの単位で、住民同士のふれあい交流や見守り活動を応援しています。これらの活動を住民の皆さんと進める時、話題に上ることの一つに、「参加してほしいと思う人の参加が少ない」ということがあります。

「参加してほしい人」とは、民生委員や世話係・福祉職が、地域での見守りが必要だと感じる人や、虚弱な状態にある人を指します。参加しない（できない）人にも事情はあるでしょうから一概にはいえませんが、参加のきっかけを失ってしまった人や、気遣いをして参加できない人が相対数いると感じています。

誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを、地域ぐるみでめざす時、傍に立つて背中にそっと手をあて、一緒に一歩前に踏み出してくれる存在が、身近にいてくれると安心できる人が私たちの周りにもいるような気がします。

ぼわん
んと
手話
しゅわ
話!!
第44回

手話は、ろうあ者が日常使用しているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やろうあ者の生活等を紹介いたします。

「分かる」



片手掌を胸にあて、なで下ろす

ろうあ者の

日常生活を知ろう ⑳

先日、子供の通う学校で授業参観があり、事前に手話通訳者の派遣を淡路聴覚障害者センターに依頼しました。当日は、手話通訳を介して、授業での先生のことばや自分の子供の発表、またクラスの子供たちが発表している内容を知ることができました。

協力：淡路聴覚障害者協会

手話サークル津名